

韓国研修報告～東国大学付属病院～

林 あゆみ

5年 12A124

概要

2016年8月17日～20日の4日間で行われた。2日目は東国大学薬学部、調剤薬局、大学病院の見学をし、3日目は韓方市場および博物館の見学をした。本学からは3年生4人、4年生2人、5年生5人の計11名が参加した。

東国大学付属病院

韓国では西洋医学だけでなく東洋医学も治療に取り入れている。そのため私たちが普段飲んでいるような西洋医学の薬を調剤する薬剤部以外に韓方を調剤する薬剤部があった。西洋医学の薬を調剤する薬剤部では、630床ある入院患者の薬の調剤と外来患者の調剤が行われていた。日本の病院と違いPTPシートの薬が少なくほとんど

がバラ錠であるため、自動分包機を用いてほとんどの調剤を行っていた。

麻薬に関しては日本と同じように金庫で厳重に保管されており、担当薬剤師が管理していた。日本と違いお薬手帳は存在しないが、薬が処方されると国が管理している機関に情報が行く。これにより重複投与がされていないかの確認し、二重処方の予防に繋げていた。

韓方を調剤する薬剤部では外来用の韓方を10日分作っていた。入院患者にはヤカンの様な容器(図6)で毎日調剤していた。図7に示すガラス張りの部屋の中は温度・湿度が一定に保たれており、清潔区域となっている。日本では漢方を扱うのも薬学部を卒業した薬剤師が



図1. 東国大学薬学部入口



図2. 韓方市場



図3. 調剤室(西洋医学)



図4. 一包化機

行うが、韓国では薬学部とは異なり韓国に3か所ある韓薬学科を卒業することで韓方を扱うことができるようになる。

調剤室以外にも韓方の外来センターである Beauty Care Center という部署があった。名前から考えると美容に関することを行う所かと思っていたが、西洋医学に基づいて診療・検査・治療する部署であった。ここでは針や韓方を用いた治療が行われ、見学させていただいたときは中枢神経と末梢神経に疾患がある患者さんが針と光線を用いた治療を行っていた。

感想

今回研修に参加させていただいて、今まで興味があった他国の医療について少しだが触れることができ貴重な体験となった。I 期に病院実習で日本の病院を見ていたので韓国の病院と比較することができ、このタイミングで研修に行くことができよかったと思った。日本の病院との共通点があれば異なる点もあり、お互いの国の良いところを組み合わせることができたら今後もっと良い医療の提供ができるのではないかと思った。また韓国の学生さんとも韓国、そして日本で交流することができ、とても良い経験となった。今後も今回交流した学生さんとの関係を続けていければよいと思った。



図 5. 韓方の保存棚



図 6. 入院患者用の薬器



図 7. 清潔区域



図 8. 今回交流した学生